

# 木造保育園の設計

## —みたけ保育園改築計画—

八代研究室

00212181

星野 公亮

住宅街 木造構造 木の温もり

### 1. 設計の背景

子どもは3歳までの生活環境で人格の大半がつくられると言われている。保育所は子どもにとって1日の大半を過ごす生活の場であり、そこでの環境が子どもの成長・発育のうえで大切であることは言うまでもない。知らず知らずの間に肌から感じる感覚が、子どもの人格を形成するものだとしたら、保育所の建築には十分な配慮が必要であり、その中で木の持つ性質を生かし、子どもたちの五感(触感など)にも配慮した保育所を提案する。

保育所の建築において木を使用した建物の利点は数多くある。園児に与える印象のよさ、暖かみ、感觸のよさ、また通気性のよさなどがあげられる。特に内装材として木材を使用することにより温かみと潤いのある環境が期待される。また転倒時や衝突時の弾力性など安全面においても優れた性質を持っている。このような木の持つ利点は他の材料では決して真似できないすばらしいものであると考えられる。

- ・ 木の建物 → 子どもにやさしく、やさしい子に育つ。
- ・ 自然溢れる環境 → 発見と体験が生まれる。
- ・ 開放的な空間 → 活発な子に育つ。

### 2. 敷地状況

埼玉県熊谷市見晴町。熊谷市の住宅街の中に[みたけ保育園]という鉄筋コンクリート造の保育所がある。敷地は住宅街の中にあり、周辺からは自然を感じることは少ない。

保育室は1階と2階に配置されているが、保育室には陽の光はほとんど届かない。床もPタイル仕上げなので子どもたちは上履きを履いて生活をしてい

る。印象としては<暗い>イメージが残ってしまう。

この地に陽の光に恵まれ、自然を感じる事が出来、木の温もりに守られている保育所を建てる事が今回の設計趣旨である。

### 3. 建築概要

用途地域	→ 第一種住居地域
敷地面積	→ 1163.5 m <sup>2</sup>
1階	→ 500.17 m <sup>2</sup>
2階	→ 331.24 m <sup>2</sup>
延床面積	→ 831.41 m <sup>2</sup>

### 4. 平面計画

住宅街だということもあり細長い敷地である。そのために、南側に園庭を配置し、北側に建物を寄せることにより、南隣する住宅から離すことができ、園内に十分な陽の光を入れることができた。1階にはすぐに園庭に飛び出して遊べるように3、4、5歳保育室、2階には0、1、2歳保育室を配置した。

また開放的な視界を確保し、多目的に保育室を使える空間にするために壁を少なくした。遊戯室は開放的な空間にするために吹き抜けとした。また床の仕上げはすべての部屋で桧を使い子どもたちは裸足で生活することが出来る。

### 5. 断面計画

小屋組に鈹状トラスを用いることにより大スパンを可能にした。これにより柱、壁をなくすことができ、視界を妨げるものがなく、大らかで、のびのびとした空間ができた。

南面は出来る限り開口部とし、鈹状トラスの上部にトップライトを設けることにより保育室、遊戯室ともに明るい空間にすることが可能となった。

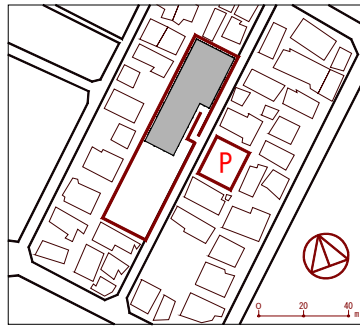


図1 配置図

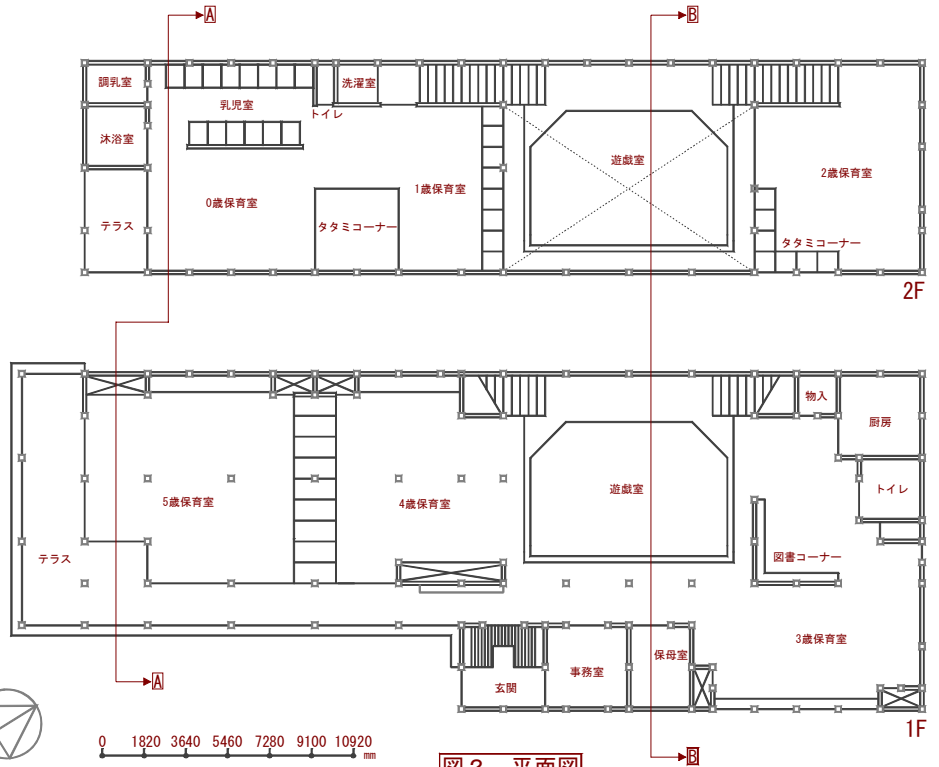
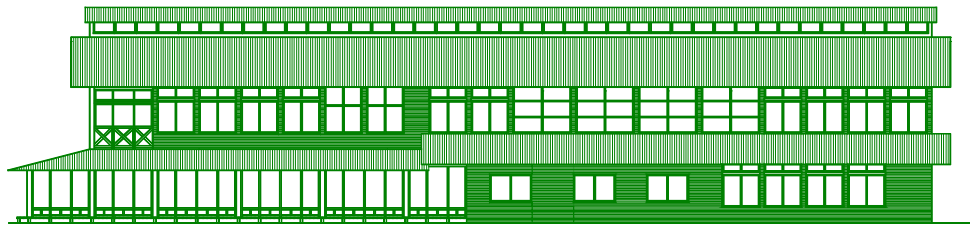


図2 平面図

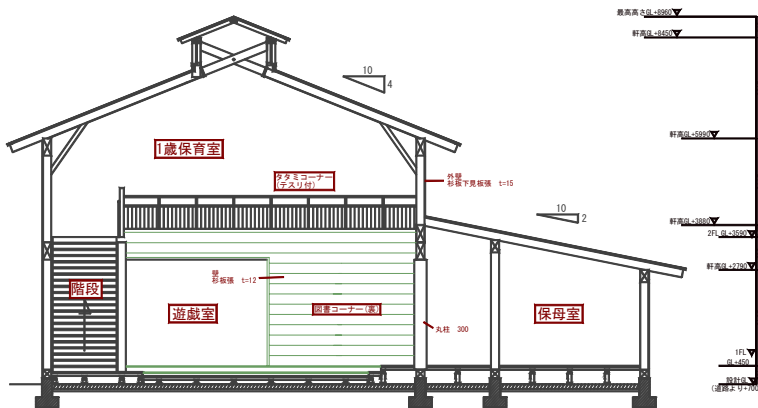


南

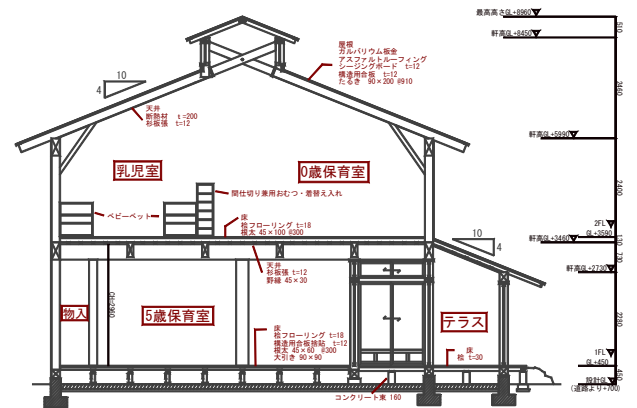


東

図3 立面図



B-B 断面図



A-A 断面図

図4 断面図